

平成 22 年第 2 回美術館協議会議事録

- 1 日時 平成 23 年 3 月 8 日 (火) 午後 2 時 30 分～
- 2 場所 山梨県立美術館総合実習室
- 3 出席者 協議会委員 (13 名)
 - ・曾根敦子 ・細窪康文 ・秋山 弘 ・鶴田一杏 ・齊藤武士
 - ・大村 智 ・野口英一 ・金丸康信 ・鈴木郁子 ・植松増美
 - ・渡辺文子 ・島津久美子 ・岡田恭子事務局：白石館長・高山副館長・向山学芸幹・古屋課長
美術館担当 3 名・指定管理者 2 名
教育委員会：学術文化財課企画担当 1 名

4 議案

- (1) 平成 22 年度事業報告等について
- (2) 平成 23 年度事業等について

5 議事の概要

議長

平成 22 年度事業報告、平成 23 年度事業について、事務局から説明があったが、ご意見・ご質問等あったらよろしくお願ひしたい。

委員 A

広報の在り方の見直しをお願いしたい。以前に比べ、昨年度はテレビや新聞に露出した機会が増えたと感じたが、展示会毎に担当の広報員を設けるなりして、もう一歩先に進んで欲しい。

県民に解りやすくするために、これからは、常設展にもコンセプトを持たせていくということだが、常設展は館の収蔵作品を見せるというイメージ、特別展は展示の企画力が大切だと思う。また、最近常設展と特別展が同じ画家を取り扱っていて、展示内容やコンセプトが渾然一体となってしまう良く解らない美術館があるが、山梨県立美術館は気を付けていただきたい。

事務局

貴重な意見ありがとうございます。単に「常設展」というだけでは、県民の皆様も「また同じ展示か。前に見たからいいや。」と見る前に拒否されてしまうし、マスコミ等への説明もしにくく、露出の機会が減ってしまう。そこで常設展にもコンセプトを設け際だたせようとしているので、御理解をいただきたい。

委員 B

特別展によっては観覧者数に 5～6 倍の差があるが、広報の仕方の違いか。原因を分析しているか。

事務局

いろいろな背景があるが、開催期間の長さや作家の人気の有無、メジャー性、県民性、趣味嗜好もあると思う。例えば、戦後の現代美術というジャンルでは、岡本太郎さん以外の展覧会だとお客さんは入らないと思われる。しかし、戦後の前衛美術の紹介も県立美術館の使命であると考えている。すべての美術がキレイで具象の物ばかりではないので、県民の皆様こういう美術もあるという事を伝えるため開く特別展もある。このような訳で集客数に開きが出てしまったということである。

委員 C

ボランティアさんの研修について教えてもらいたい。

事務局

まず、当館ではボランティアさんの事を協力会員と呼んでいる。

現在 120 名前後の協力会員が居る。受付案内から始まり、最近では県内の観光案内まで行っている。また、図書の整理、ポスター整理、ワークショップの協力などを行っており、正に美術館運営のための大きな力となっている。

特に、解説ボランティアは、とても厳しい門をくぐり抜けなくてはならない。1年目は館で行っている各種美術講座への参加や接遇研修を受け、最後には展示作品に係る筆記テストや人前で話す訓練も行っている。そして2年目以降やっとお客様の前に立つことができる。

委員 C

来年度の企画展、浅川兄弟展について教えてもらいたい。これは山梨県立美術館独自の開催か。また、浅川兄弟に関係する映画が作られると聞いているが同時期に開催されるのか。

事務局

映画化と言う話もあったようだが、見送られたようである。北杜市の資料館とは、期間中の作品借用の交渉も行っている。また、出身地である北杜市も、特別協力という形で密接に関係してもらおう予定である。大阪の東洋美術館、千葉の市立美術館、栃木県立美術館、山梨県立美術館の4館で開催することになっている。

委員 C

浅川兄弟の物語を読んだことがあるが、日中戦争・太平洋戦争の時代に朝鮮半島に渡り、朝鮮の人の立場で朝鮮を捉えることのできた数少ない日本人で、日韓の文化交流の中心になってもおかしくないような内容であった。そう言った意味でも、是非成功させて頂きたい。